

14. 中国現代物流の発展動向と課題

イ. 調査の目的

近年の中国、インドの高成長や ASEAN を中心とした FTA の動きは、東アジアにおける国際物流を増大させるとともに従前の日本を中心とする物流構造から多極構造へと変化をもたらしている。東アジアとの貿易投資の比重を高めている我が国にとって、変貌を遂げつつある東アジアの物流事情を調査分析し、インターモーダル・ネットワークや物流制度・ルールなどの分野で直面する課題を探ることは今後の円滑な物流、経済交流の一層の促進を図るうえで極めて重要といえる。

このような問題意識から平成 20 年度では東アジアの中核のひとつである中国を対象とし、中国の現代物流の発展動向を探り、その課題を明らかにすることを目的としている。

ロ. 調査結果の概要

第 1 章 「中国物流政策の動向」

中国経済の更なる発展のためには、物流の高度化が急務であるとの認識が中国政策当局にはある。物流インフラの整備・拡充ばかりではなく、制度・ソフトを含んだ総体としての「現代物流」体系の構築である。行政組織としては、物流対応機構としていまだ一体化されてはいないが、国家発展改革委員会が中心となって部際レベルで連携がなされている。物流政策について「大綱」的なものも制定され、それを踏まえて関係部門が政策を策定し、実行に移している。

第 2 章 「中国貨物輸送の現況と物流インフラの整備動向」

改革開放以来の中国における高度経済成長に伴って、貨物輸送量は大幅に拡大する傾向にある。そうした需要の高まりを反映して、政府は交通運輸部門のインフラ建設に対し、これまで多額の公共投資を実行してきた。特に道路整備向けの投資が他を圧倒しており、輸送モード別でトップを占めている。BRICs を構成するような国々と比べても確かに充実されてきたとはいえ、経済発展のスピードに十分まだ追いついていない状態で、インフラ整備が依然としてネックになっているのが実情である。このため、中国では更なる輸送能力の強化を目指して、今後も鋭意、交通インフラの整備・拡充に注力していく意向で計画が目白押しである。

第 3 章 「鉄道・道路のインフラ整備の現状と貨物輸送」

中国の輸送モードのうち最も遅れている鉄道輸送の現代化を達成するために、鉄道部の組織改革、体制改革が実施される一方、鉄道網の整備拡充、電化、複線化などのインフラ整備と同時に現代物流の核たるドア・ツー・ドアサービスを実現するための貨物の最適輸送などの体制整備や IT による管理体制整備が、鉄道コンテナ輸送体制の整備を基礎として推進されている。(第 1 節)

1993 年に認可された五縦七横国道主幹線規画の 12 の道路建設は 2008 年に全てを完

了した。この規画後の新しい整備計画は、国家高速道路網規画の 7918 網という高速道路建設である。両者の現状及び「11・5」規画における未完成の重点プロジェクトの西部開発 8 条省際公路通道整備の現状を報告し、2009 年不況下で 1.8 兆元を投じて実施される交通インフラ整備と毎年開催される交通運輸工作会議で発表された 09 年の重点プロジェクト等について述べる。(第 2 節)

第 4 章 「港湾整備と港湾物流の発展」

近年、中国の主要港湾は「世界の工場」を担って支障のないレベルまで発展を遂げてきた。建設の骨格は国家 5 ヶ年計画ではあるが、各地方の特殊性や経済力の優劣がある。本稿の前半では全国の港湾貨物、とりわけコンテナ取扱量の推移と近況を論じた。後半では中国最大の経済圏・長江デルタに焦点を絞った。「長江口深水航路」や「洋山港」プロジェクトに見られる英知と大胆な外資導入政策で、瞬く間に香港を抜いて世界ランキング第 2 位となり、今や首位の座を狙う「上海パワー」を、持論を交えて記述した。そして、上海港の競合港に成長した寧波港にもスポットを当て、おわりに、世界同時不況の影響にも触れた。

第 5 章 「航空貨物輸送と空港の整備状況・計画」

航空市場への参入規制の緩和が進むにつれ、航空会社の設立と再編が繰り返された結果、北京、上海、広州の主要空港を拠点とする三大航空会社グループに概ね集約されつつある。こうした中で、国内と国際を合わせた貨物・旅客とも旺盛な需要拡大に支えられて、航空輸送の急速な発展が目立ってきた。そのため、航空インフラの整備、とりわけ空港・同ターミナルの拡張ないしは増設が急ピッチで推し進められている。中国は今、「民間航空強国」の確立を視野に邁進中であり、景気後退下にあって今後もさらに一段と投資を強化していく方針である。

第 6 章 「中国における物流企業の展開」

中国は建国 60 年、改革開放 30 年の節目を迎え、新しい発展への模索を始めている。ハード、インフラの建設では一定の成果を上げている。物流の面では大規模コンテナ埠頭や空港の整備は着々と進んでいるが、消費物流の構築などの課題も多い。要はソフトの整備であり、健全なサービス業、フォワーダーの発展が不可欠と思われる。経済の持続的発展を支え、物流発展を保障するのは人材の育成、とりわけ現場の職業訓練にあると考える。

第 7 章 「インテグレーターの対中進出と中国事業展開」

中国のロジスティクスの動向をみると、航空会社とフォワーダー両方の機能を持ち、グローバルに展開してきたインテグレーターの動きを見逃せない。4 強といわれる FedEx、UPS、DHL (DPWN)、TNT のこれまでの中国進出について、エクスプレス事業を中心に紹介する。近年の事業展開をネットワークとハブなどの拠点形成の点から整理し、各社の特徴を抽出した。